

# 大館の歴史散歩

10

## 幻の城「鬼ヶ城」のこと(下)

今回発見した「城郭遺跡」は連郭式で、大館地方の同形態の城郭跡の中では規模が大きく、築構土木工作もすっかりしている。特にI郭北辺部の「土塁状枳形遺構」は、発掘調査によって確認されると、近世「大館城」以外では初めての施設で、他の城館跡に比べ、



鬼ヶ台「城郭遺跡」主郭部略図

より近世的な築城工作が施されたものであるといえよう。

「城郭遺跡」は長木川溪谷沿いの交通路を押える格好の位置にあり、大館盆地の関門としての性格が強いと考えられる。『六郡郡邑記』「茂内村」に「古来は一ノ関村と云」とあり、『郷村史略』「茂内村」に「左馬台と云あり、昔浅利の家老野呂左馬助住せし跡といふ」とある。この茂内村とは現在の大字茂内地区をさし、小茂内村を中心とする一帯をいう。

一ノ関村とはまさに二の渡、一の渡、の難所を前面におく、長木川沿い交通路「一ノ関」であろう。左馬台については未だその位置を確定し得ないが、大字茂内地区での城館跡は、今のところ発見したものが唯一である。この「城郭遺



鬼ヶ台「城郭遺跡」空堀(東より)

跡」が「鬼ヶ城」と呼ばれ、「左馬台」である可能性は高い。今後は長木川沿い交通路の経済的・軍事的意義の追求と鳳凰山・伝玉林寺跡・鍋越山・大茂内諏訪台といった付近の総合的研究調査が肝要であろう。

(市史編さん室)

## 図書館コーナー

～新着図書～

「犯罪報道の犯罪」

(浅野健一著 学陽書房)

「日本のマスコミの犯罪報道は、被疑者・被告人・犯人、そして家族に対してまでもそのプライバシーを暴き、回復不可能なまでの社会的制裁を加える。これは明らかな人権侵害であり許されることではない」と著者は言う。本書は、日本の犯罪報道が、犯罪的な犯罪報道から、人権を最優先した市民のための犯罪報道に転換すべきことを提言する一冊である。

＜一般書＞

◇アフリカ難民 悲しみの大地から (伊藤正孝編著) ◇百代の過客(D・キーン著) ◇西遊記の秘密(中野美代子著) ◇仮面の谷崎潤一郎(大谷晃一著) ◇村に吹く風(山下惣一著) ◇知の職人たち(紀田順一郎著) ◇一休さんの門(川口松太郎著) ◇女たちの遠い夏(カズオ・イシグロ著) ◇鹿鳴館(富田仁著) ほか

＜児童書＞

◇いじめられっこ いじめっこ (鈴木喜代音作) ◇冬の歌 母と子(原のぶ作) ◇夜の三角形(長谷川集平文) ◇ことりのオデット(ケイ・フェンダー作) ほか

◆「読み聞かせ会」は毎月より毎週金曜日午後2時30分からになりました。

### 3月の図書館の休館日は

17日・21日・28日です



## われらサークル仲間

No.8

「パッチワーク」サークルは、パッチワークは、大小の布をはぎ合わせて作る手芸で、以前は衣服につき当てたり、傷んでいない部分を切り取ってはぎ合わせたりする実用的なものでしたが、今はクッション

やシヨルダー、テーブルクロスなどの装飾品が多く作られるようになり、全国的にブームとなっています。婦人会館では、毎週水曜日午前10時から「パッチワークサークル」が行われています。このサークルは、婦人会館の講座を修了した人たちがサークルを結成し、講師の川上アイ先生を中心に十人の会員がカラフルなパッチワークを楽しんでいます。会員は、型紙を作り、思い思いの布を裁断し、それを縫い合わせて自分だけのオリジナルな作品を完成させています。一つの作品を作るのに小さいもので一カ月、テーブルクロスなど大きなものになると半年以上もかかるとあって、完成したときの喜びはひとしお。次の作品への夢が大きくふくらんでくるといいます。そして苦労して作ったテーブルクロスやシヨルダーなどは使うのも惜くなり、部屋のインテリアにしたり、宝物としてしまっておく会員もいるそうです。

## 婦人会館

### サークル会員募集



婦人会館のサークルでは会員を募集中です。なお、会費はいずれも月1500円です。

・生花(竹青会) 毎週火曜日午前10時  
・刺し子

第1水曜日と第3土曜日午後1時

・生花(池の坊) 毎週土曜日午前10時  
・木目込人形 " 金曜日午前10時  
・パッチワーク " 水曜日午前10時  
・リフォーム洋裁 " 土曜日午後1時  
・煎茶 " 月曜日午前10時  
・季節料理 " 木曜日午前10時  
・書道 " 金曜日午前10時  
・ペン習字 " 水曜日午前10時

※入会を希望される方は婦人会館(☎49-7028)へ申し込んでください。